

【株式相場レポート】

～下げ止まるも回復弱い～

| | 2日終値 | 前週末比 |
|----------|-----------|-----------|
| 日経平均(円) | 22,243.66 | +1,059.06 |
| ドル(円) | 112.95-96 | +0.94 |
| NYダウ(ドル) | 25,380.74 | +692.43 |
| 長期金利(%) | 0.125 | +0.010 |
| NY原油(ドル) | 63.69 | -3.90 |

※NYダウ・NY原油は1日終値、ドル・長期金利は2日15時現在

今週の総括

★米株価回復に加え、一部大型株の好決算を下支えに株価反転も、力強さを感じにくい展開

今週のプラス材料

- ・製造業中心に好決算の発表が目立つ
(但し、市場予想平均に届かないケースもあり)
- ・失業率、有効求人倍率の高水準続く

今週のマイナス材料

- ・NTTドコモが値下げを発表、通信株が大幅下落
- ・独メルケル首相が与党党首退任の意向を表明
- ・米アップル決算が最高益も販売台数が市場予想下回る

今週の日経平均は、緩やかな上昇基調となり22,000円台を回復するも、先週の下落分は取り戻せず引けた。

日米ともに先週の大幅下落が29日で下げ止まり、そこから大きく反転した。しかし、先週までの下げ幅が大きかったことを考えれば、戻り幅は小さめで、反発力はあまり強くない印象。来週に米中間選挙や米国の対イラン制裁開始を控えて様子見モードとなりやすいタイミングであることに加え、独メルケル首相の退任など不透明感につながりやすいニュースなども相場の足かせとなった可能性がある。

決算発表では、時価総額数兆円クラスの超大型銘柄の中で、ソニー、村田製作所、ホンダ等の上方修正があり、業種別でも電機・精密、機械、化学、非鉄の上昇が目立った。一方で、NTTドコモが携帯料金的大幅値下げを発表して通信株が大きく下落したことが日経平均を押し下げる方向に影響したと見られる。その他には、銀行など金融株も上昇した一方、医薬品、電力・ガス、鉱業、食品、不動産なども冴えない動きとなった。また、久しぶりにTOPIXグロース指数がTOPIXバリュエーション指数を大きく上回って上昇している。

来週以降の見通し

★米雇用統計と中間選挙結果次第

日経平均想定レンジ **21,500～23,500円**

来週以降の注目材料

- ・米雇用統計(日本時間2日夜)
- ・米中間選挙(同7日)
- ・2Q決算発表
- ・米国の対イラン制裁第2弾(4日開始予定)

リスク要因

- ・米政権の動き/関連報道
- ・原油価格(イラン動向含む)と為替市場の乱高下
- ・北朝鮮動向、トルコ動向、イスラエル・シリア動向
- ・米国、中国、欧州の各地域経済の減速リスク

来週の日経平均は、前半は様子見モードとなる可能性が高いが、後半は米中間選挙結果次第となりそうだ。

まずは日本時間2日夜に発表される雇用統計に注目したい。引き続き順調であれば、次回12月の米利上げや2019年の利上げ継続の可能性が高まることになるが、結果として米長期金利が上昇すれば、9月後半のように円安・株高につながる可能性があるだろう。米長期金利が反応するかどうかに注目したい。

4日には米国の対イラン制裁発動が予定されている。最近ではサウジ動向が注目されてイラン関連の報道が少なく、原油価格も落ち着きを見せているが、イランの反応次第で原油価格が変動するリスクが考えられる。

米中間選挙後の市場反応は見通しにくい。上院・下院ともに共和党が勝つと米政権の動きが加速して市場価格の変動も大きくなりやすいが、「現状維持」でもある。一方で民主党が勝つと米政権の実行力に懸念が生じるが、市場がある程度想定済みと見られるのと、米中貿易摩擦が解消に向かう可能性が出ることもなり、必ずしもマイナスとも言いにくい。選挙結果が出た直後の日本市場よりも、翌日の米国市場の株価、長期金利、為替の動きが次の方向性を決めるのではないだろうか。

次頁にコラム「徒然なるままに」

徒然なるままに

日本版GPSを担う人工衛星「みちびき」の本格運用が11月1日に始まったそうだ。2010年に1号機が打ち上げられていたが、2017年に2～4号機が相次いで打ち上げられ、これで4機のうちどれかが常に日本上空付近にいる態勢が完成し、実証実験を終えて、1日から本格運用が開始された。これにより、従来のGPSより精度が向上し、位置情報の誤差が現在の10mから10cm以下となるらしい。

GPSの身近な利用法といえば、車のカーナビと携帯の道案内・地図情報だろう。他にも船舶や飛行機、鉄道・バスやトラックはもちろん、建設現場の測量や田畑での作業効率化など、様々な用途がある。そして位置情報の精度が向上すれば、それらの自動運転などにも応用が可能となるため、いろんな活用法が期待される。

私の趣味であるマラソンやトライアスロンの世界でもGPS付時計が普及している。この5年くらい間に一気に普及したのではないだろうか。当初は重くて大きく、価格も高価で、しかも電池の持ち時間が数時間と短く、フルマラソンでギリギリ、10時間を超えるトライアスロンでは電池が最後まで持つか微妙という代物だった。しかも、GPS電波の捕捉に時間がかかったり見つけられなかったり、精度も低くて「そんなとこ走ってないけど」という表示が出たり。

それがこの数年で軽量化・小型化が進み、電池も20～30時間持つタイプも出てきた上に、価格も数年前の半額以下に下がっている。さらには心拍計や高度計まで内蔵しているタイプも出ている。私は6年前に購入した心拍計付時計を使用しているが、胸に心拍測定器付バンドを巻かなくてはならず、これがフルマラソンだと擦れて出血しやすく、レース後のスーパー銭湯で「痛い」のが難点だった。

今回のみちびき運用開始でGPSの精度が上がるとなれば、買い替えるべき時が来たのかもしれない。最新型なら心拍計バンドも不要だし。ただし、かつてのPCや液晶テレビと同様、こういう電子機器の購入には難点がある。半年から1年経つと、より小型・高性能でしかも低価格な商品が出てくることが多い。買った直後に次の新製品が出るとガッカリするリスクがあるのだ。とりあえず人気のあるメーカーの製品を見比べようか。マラソンシーズン入り直前に、また悩みが1つ増えたような気がする。

リスクおよび手数料等の説明

株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円(税抜)が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です
※各種書面の郵送交付には、年間1,000円(税抜)をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定：11月9日(金)17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会